

Press release

2019年3月29日
リフィニティブ・ジャパン株式会社

リフィニティブ DealWatch、2018年度の「DEALWATCH AWARDS」を発表

総合部門の発行体に「メルカリ」

引受ハウスに「野村證券」を選定

リフィニティブ・ジャパン株式会社の「DealWatch」は、2018年度に国内資本市場において債券や株式を発行した優秀な発行体、海外でオフリングを行った本邦発行体および案件を運営した引受証券会社を称える賞「DEALWATCH AWARDS 2018(ディールウォッチ・アワード 2018)」を発表しました。

DEALWATCH AWARDS は、日本関連の資本市場の育成・拡大に資することを目的に 1995年に設けられました。「本邦市場が世界の主要市場としてさらに発展していく」という観点から、アワードは発行市場における適正なプライシング、流通市場に移行した後の価格形成、資本市場の発展への貢献や創意工夫などを考慮し選定されています。

2018年度の DEALWATCH AWARDS は、「総合」「社債」「地方債」「サムライ債」「株式」の計5部門で構成されています。総合部門では発行体に「メルカリ」、引受ハウスには「野村證券」がそれぞれ選定されました。

賞の選考方法は、まず主幹実績やシンジケート団参加の実績がある引受証券会社や機関投資家にアンケートを依頼し、該当会計年度の案件から各部門の受賞候補を推薦して頂いています。2006年度からは、希望する証券会社からの自薦を受け、DealWatch 編集部が、選定された候補案件や候補者を DEALWATCH AWARDS 判断基準にのっとり、さらに吟味・選考した結果、最終的に受賞案件、受賞者を決定しております。

2018年度の DEALWATCH AWARDS 受賞一覧は添付資料をご覧ください。

©2019 Refinitiv. All rights reserved.

Refinitiv および Refinitiv ロゴは、Refinitiv の商標であり、登録商標となっています。

本書に言及される第三者の名称又はマークは、当該第三者に帰属します。

Refinitiv.com

Press release

DealWatch について

DealWatch は日本の企業および地方公共団体、非日系発行体の資金調達活動をリアルタイムにレポートする日本語のスクリーンニュースサービスです。その速報性、正確性、専門性の高さには定評があり、信頼できる資本市場情報として、市場関係者から支持を得ています。主幹事・引受等のリーグテーブルは、客観的かつ公平な指標として、発行体の主幹事選定や引受業者のマーケティング活動において幅広く活用されています。

リフィニティブについて

Refinitiv は世界有数の金融市場データのプロバイダーで、190 カ国以上で 4 万社を超える企業・機関にサービスを提供しています。先導的なデータとインサイト、トレーディング・プラットフォーム、市場データ・インフラストラクチャー、オープン・テクノロジー・プラットフォームの提供を通じて、世界の金融市場コミュニティを相互に接続し、発展を支えます。それによりトレーディング、投資、ウェルスマネジメント、規制およびマーケットデータ管理、企業が抱えるリスク、金融犯罪対策などの分野において進化をもたらす先駆者としての役割を果たしていく所存です。詳しくはウェブサイトをご参照ください。<https://www.refinitiv.com/ja>

以上

DealWatch に関する問い合わせ先:

小林 真美子

DealWatch 編集部

電話番号: (03) 6441-1844

mamiko.kobayashi@refinitiv.com

リフィニティブに関する問い合わせ先:

藤森 英明

PR 部門

電話番号: (03) 6441-1504

h.fujimori@refinitiv.com

DEALWATCH AWARDS 2018 受賞一覧**総合部門****<Issuer of the Year>****メルカリ**

日本初となるユニコーン企業の IPO を会社設立後約 5 年で実現。現在は積極投資が先行しているが、事業モデルの新規性と優位性、今後の成長戦略が幅広い投資家から評価された。新たな価値を創造し提供する時代の幕開けを市場に印象づけた。

<House of the Year>**野村証券**

不安定な市場環境においても投資家目線を反映したプライシングと強固な販売力で円滑に案件運営を執行した。難易度の高い案件では革新的な商品設計で課題を克服。国内外の発行体の機動的な調達を支援した。投資家層の拡大にもつなげた。

社債部門**<Bond Issuer of the Year>****BPCE**

サムライ債市場に定期的アクセス。他の海外発行体がユーロ円債を選択するのは一線を画す。前年度同様、シニア債に加え、ソーシャルボンドや非上位債も発行を継続。本年度、サムライ債の発行残高は 1 兆円を突破した。

<Bond House of the Year>**みずほ証券**

銀行・保険セクターを除く全てのハイブリッド債で主幹事を務め、市場規模が拡大する ESG 債の引受実績も積み上げた功績が光った。デビュー債では注目度の高い案件に関与。ブックランナー・リーグテーブルは 3 年連続のトップとなった。

<Bond of the Year>**第5回ファーストリテイリング債（800億円、5年）**

野村證券／三菱UFJモルガン・スタンレー証券／SMBC日興証券／みずほ証券

第6回ファーストリテイリング債（300億円、7年）

野村證券／三菱UFJモルガン・スタンレー証券／SMBC日興証券／みずほ証券

第7回ファーストリテイリング債（1000億円、10年）

SMBC日興証券／三菱UFJモルガン・スタンレー証券／野村證券／みずほ証券

第8回ファーストリテイリング債（400億円、20年）

三菱UFJモルガン・スタンレー証券／SMBC日興証券／野村證券／みずほ証券

社債として難易度の高い年限である20年債を組み合わせ、全トランシェで大型のシニア債としては異例のポット方式を導入。発行額2500億円に対し、最終的には総額3400億円を超える需要を集め、本年度前半の良好な起債環境を象徴する案件となった。

<Debut Debt Deal of the Year>**第1回大塚ホールディングス債（200億円、5年）**

野村證券／大和証券／三菱UFJモルガン・スタンレー証券／みずほ証券

第2回大塚ホールディングス債（300億円、7年）

野村證券／大和証券／三菱UFJモルガン・スタンレー証券／みずほ証券

第3回大塚ホールディングス債（300億円、10年）

野村證券／大和証券／三菱UFJモルガン・スタンレー証券／みずほ証券

慎重な投資戦略や消費者関連事業の競争力も評価され、総額800億円の調達となった。高格付け銘柄であり、市場環境やボリューム・プレミアムを反映した妙味ある水準も中央・地方投資家の需要を喚起した。

<Innovative Debt Deal of the Year>**日本生命第1回劣後ローン流動化 第1回債（1000億円、30年NC10、劣後債）**

大和証券／SMBC日興証券／みずほ証券／野村證券

同債は実質的には生命保険による公募劣後債。私募ハイブリッド債と比べると流動性も伴い、大型案件ながらも幅広い投資家の旺盛な需要を喚起した。これまで公募債の発行が難しかった相互会社の生保に新たな資金調達の道を開いた。

<Offshore Bond of the Year>**三井住友銀行ユーロ建てカバードボンド（10億ユーロ、5年）**

ゴールドマン・サックス・インターナショナル／英国SMBC日興キャピタル・マーケット／バークレイズ銀行／BNPパリバ／クレディ・アグリコル CIB／UBS

ローン債権などを担保にしたカバードボンドは、対応した日本法がないため発行が難しかった。同債はデリバティブ取引の「一括清算法」を適用すれば発行が可能と判断して、本邦企業として初めて起債を実現。欧州市場において低コストで外貨調達できる道筋をつけた。

地方債部門**<Local Government Bond Issuer of the Year>****静岡県**

地方債市場で初となる外貨建て債を発行。国内投資家のニーズや海外投資家の参加を視野に入れた起債戦略で、投資家の裾野拡大を実現するとともに安定した調達手段を確保。自治体による資金調達方法の多様化を促進した。

<Local Government Bond House of the Year>**野村證券**

10年満期一括債、10年ゾーンと20年ゾーンの定時償還債で、投資家目線に沿った水準の上方修正を実施した。地方債で初の試みとなった外貨建て国内債にも関与。ブックランナー・リーグテーブルは2年ぶりに1位に返り咲いた。

<Local Government Bond of the Year>**愛知県平成30年度第18回公募公債（300億円、10年）**

大和証券／みずほ証券／野村證券

ベース金利のボラティリティの高さや市場の地合いを反映した需給の均衡点を見だし、10年地方債の需給悪化局面において、先陣を切って水準調整を行った。新規の中央投資家も参加する形となり、最終発行額の2倍以上のオーダーを集めた。

サムライ債部門**<Samurai Bond House of the Year>****みずほ証券**

本年度のサムライ債市場で最大のテーマとなった TLAC/MREL 適格債では、ロイズ・バンキング・グループ債など多くの案件に参画。復活著しい韓国ネームでも主幹事実績を上げた。各案件で存在感を示し、3年連続で主幹事リーグテーブル首位に輝いた。

<Samurai Bond of the Year>**第17回韓国輸出入銀行債（700億円、1年6カ月）**

大和証券／メリルリンチ日本証券／三菱UFJモルガン・スタンレー証券／みずほ証券

第18回韓国輸出入銀行債（500億円、3年）

大和証券／メリルリンチ日本証券／三菱UFJモルガン・スタンレー証券／みずほ証券

北朝鮮問題をめぐる地政学的リスクを背景に的確な起債時期や投資家ニーズを考慮した年限選択、政府系機関という信用力の高さで投資家の需要を積み上げた。他の韓国銘柄ラッシュの先駆けとなった。

株式部門**<Equity Issuer of the Year>****朝日インテック**

医療機器分野の技術力を強みにグローバル展開を推進。東証1部への昇格が可能ななかで経営基盤の確立に注力してきた。中期経営計画を前倒して達成して投資家待望の市場変更を実施。1部上場企業にふさわしい発行体のあるべき姿を示した。

<Equity House of the Year>**野村證券**

総合ブックランナー・ランキングで6年連続の首位。国内外での円滑な資金調達を支援した。下半期の軟調な市場環境においては柔軟な姿勢で臨み、慎重かつ果敢に大型案件を執行して先導的な役割を果たした。新たな事業モデルを手がける企業の上場も支援した。

<Equity Deal of the Year>**東急不動産ホールディングス**

[払込日 10/29] 野村證券／大和証券／みずほ証券

渋谷の再開発を目的としたファイナンス。広域渋谷圏の発展による同社の成長と財務基盤の強化が市場から評価された。世界的な株価の調整局面だったが既公開企業で本年度最大の公募増資を完遂した。

<IPO of the Year>**ラクスル**

[払込日 5/30] 大和証券／三菱UFJモルガン・スタンレー証券／みずほ証券

「シェアリングエコノミー」の筆頭として同案件は投資家からの脚光を浴びた。印刷業界や物流業界での業務効率化を足がかりに、顧客基盤の拡大による将来の成長性も加味したバリュエーションが支持された。海外投資家からの極めて旺盛な需要を喚起して株価も堅調に推移した。

<Equity-linked Product of the Year>**LINE 2023年満期ユーロ円CB (365億8000万円、5年)**

モルガン・スタンレー・インターナショナル／野村インターナショナル／JPモルガン・セキュリティーズ／
ゴールドマン・サックス・インターナショナル／みずほインターナショナル

LINE 2025年満期ユーロ円CB (365億8000万円、7年)

モルガン・スタンレー・インターナショナル／野村インターナショナル／JPモルガン・セキュリティーズ／
ゴールドマン・サックス・インターナショナル／みずほインターナショナル

株価が上場来高値圏で推移するタイミングに起債。明確なエクイティ・ストーリーで訴求する一方、アセットスワップと親会社から貸株提供するスキームで不安定要素を排除し、投資家の需要の掘り起こしとともに高い転換プレミアムを実現した。

<J-REIT Deal of the Year>**三井不動産ロジスティクスパーク投資法人**

[払込日 2/1] 大和証券／野村證券／SMBC 日興証券

投資口 1 口当たり分配金の継続的な成長を実現するとともに、負債比率を低水準に据え置き、投資家から継続的な外部成長への期待を集めた。発行市場における物流系 REIT の供給が相次ぐ中でも市場の評価も高く、新規投資家も参加する案件となった。

<Innovative Equity Deal of the Year>**Altaba 社によるヤフー株売り出し(ブロックトレード)**

[9/11] ゴールドマン・サックス・インターナショナル／JP モルガン・セキュリティーズ (アルファベット順)

日本市場で過去最大のブロックトレード。市場リスクを最小限に抑えるべく約 8 時間のマーケティングで海外投資家から旺盛な需要を集め、想定売却サイズの 1.8 倍となるアルタバ社保有全株式 43 億ドルの売却に成功した。

以上